8 農地転用状況

（単位：件、a）

年度	区分	総数 件数	総数 面積	住宅用地 件数	住宅用地 面積	工場用地 件数	工場用地 面積	その他の建物用地 件数	その他の建物用地 面積	公共用地 件数	公共用地 面積	その他 件数	その他 面積
平成10年	旧水海道	213	1,335	123	471	12	240	19	83	44	438	15	103
	旧石下	105	1,343	45	242	2	13	13	622	11	174	34	292
平成11年	旧水海道	181	1,109	83	307	8	130	16	189	43	223	31	260
	旧石下	70	2,212	28	167	2	652	12	755	11	498	16	140
平成12年	旧水海道	158	917	63	210	3	31	13	85	37	271	42	320
	旧石下	77	1,296	35	154	2	27	8	122	12	802	20	191
平成13年	旧水海道	177	1,987	70	273	－	－	1	9	43	485	63	1,220
	旧石下	89	1,086	26	150	7	189	8	90	15	372	33	285
平成14年	旧水海道	237	2,422	73	302	1	9	3	11	16	144	144	1,956
	旧石下	78	905	26	246	1	10	8	42	15	412	28	195
平成15年	旧水海道	232	2,509	63	273	－	－	19	294	21	161	129	1,781
	旧石下	74	556	27	164	3	15	8	79	25	201	11	97
平成16年	旧水海道	127	1,074	28	113	－	－	5	23	15	189	79	749
	旧石下	78	748	30	194	1	9	6	72	20	244	21	229
平成17年	旧水海道	88	929	24	107	3	48	8	52	26	435	27	287
	旧石下	82	741	28	183	1	9	7	84	25	237	21	228
平成18年	常総市	147	1,503	58	219	3	158	13	313	39	453	34	360
平成19年	常総市	138	1,312	60	280	3	132	13	86	20	418	42	396

資料：農業委員会

原料輸入から製品輸入へ

農産物の輸入は，かつては，麦，飼料穀物（雑穀），大豆といった農業生産の原料（畜産用の飼料原料）及び食品工業の原料（製粉用の小麦，油脂用の大豆，，砂糖の原料作物など）が大部分であり，国内生産との競合は少なかった。言わば，原料の輸入が中心であった。1980年代後半から，野菜，果実，肉類などの輸入が増加してきた。特に，野菜の輸入は1980年代は冷凍野菜，乾燥野菜などの加工品が主であったが、最近では，日本と同じ品種のものを海外で生産して生鮮品として輸入する「開発輸入」が増え，国内生産と完全に競合するようになってきた。こうした事情から，野菜の自給率も急速に低下してきた。このように，農産物の輸入は，原料から製品へシフトし，国内生産との競合を強めつつある。こうした背景には，農産物価格の内外価格差の問題がある。

（財）日本統計協会「統計でみる日本2008」より

市町村別農業産出額（平成18年）

1　鉾田市　　5，393千万円
2　行方市　　2，354千万円
3　筑西市　　2，282千万円
・　　・
・　　・
18　常総市　　920千万円
・　　・
・　　・
44　五霞町　　105千万円

茨城県「市町村早わかり」より